



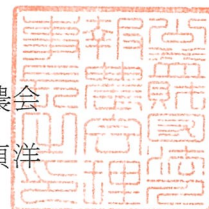
令和5年7月13日

一般社団法人日本雑草学会

会長 小林 浩幸 様

公益財団法人 報農会

理事長 田付 貞洋



第38回報農会シンポジウム開催のご案内

(広報誌への掲載依頼について)

拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当会の事業につきましては、常々多大のご協力を賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、第38回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン—2023』は、別添の通り9月20日(水)にオンラインによるライブ配信にて開催することに致しました。

つきましては、広く関係者にお知らせしたく、出来ましたら貴機関誌・新聞・雑誌等にご紹介いただければ幸いに存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

なお、シンポジウム終了後、別添のお知らせの通り報農会主催の第38回功績者表彰式をオンラインによるライブ配信(シンポジウムと同じURL)にて開催致します。

『植物保護ハイビジョン — 2023』のご案内

— 新たな展開を見せるグローバルな動きと持続性を見据えた植物保護 —

趣 旨：報農会シンポジウムでは、第 31 回（2016 年）以降加速する自然と社会の『変化』の中で、持続的な農業を支える植物保護の在り方を模索してきました。そこで私たちが当初から主張したのは、「今後の植物保護はその根幹に IPM を据えざるを得ない」ということで、これは一昨年 2021 年 5 月に農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」にも明確に示され、2022 年 7 月には当該戦略を実現するための法制度が施行されました。

この 3 年余り、コロナ禍によって未経験の厳しい制約を受け、今年に入りやっと各種の制約が徐々に緩和されてグローバルな動きが戻りつつあるものの、まだ手放しには喜べない状況です。他方、ウクライナの戦禍は治まる気配がなく、世界の経済や流通に深刻な影響を及ぼしています。穀物などの農産物や肥料、農薬などの農業資材も逼迫や価格上昇が生じているゆゆしき事態であり、農業生産をサポートする植物防疫の重要性は高まっています。冒頭で述べた『変化』はここきてさらに激変していますが、その中で持続性を根底に置いた農業の実現には、植物保護も含むあらゆる場面で発想の転換と一層イノベティブな技術開発の両方が必須と考えます。

今回のシンポジウムでは、持続性を謳う「みどりの食料システム戦略」における植物防疫分野での取り組みをベースに、農産物の輸出入や移動に絡む有害生物対策に焦点を当てて新たな局面を紹介していただく予定です。なお、諸般の状況を鑑み今回もオンラインのみの開催となります。ご理解の上、多くの皆様にご参加いただきますことを心より祈念いたします。

主 催：公益財団法人 報 農 会

協 賛：一般社団法人 日本応用動物昆虫学会、一般社団法人 日本植物病理学会、日本農薬学会、一般社団法人 日本雑草学会

日 時：令和 5 年 9 月 20 日(水) 10:00~16:00 (オンラインによるライブ配信)

〈プログラム〉

開 会：10:00~10:10 挨拶 報農会 理事長 田 付 貞 洋

講 演：10:10~11:00 『みどりの食料システム戦略』における植物防疫分野での取り組み
農林水産省 消費・安全局 植物防疫課 岡 田 和 秀

11:00~11:50 植物防疫法改正によって変わる雑草管理
京都大学大学院 農学研究科 黒 川 俊 二

11:50~13:00 休 憩

13:00~13:50 近年におけるカンキツグリーンング病の発生状況と対策研究
東京農業大学 農学部 岩 波 徹

13:50~14:40 外来カミキリムシ類の動向と対策
農研機構 植物防疫研究部門 果樹茶病害虫防除研究領域 上 地 奈 美

14:40~15:30 日本茶の輸出現況 日本茶輸出促進協議会 佐 塚 高

15:30~16:00 総合討論

参加費：3,000 円（講演要旨集を含む。ただし、講演要旨集のみ購入の場合 2,000 円）

申込み：報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧の上、申込用紙に必要事項を記入して、メール又は FAX でお申し込みください。

なお、シンポジウム終了後同じ URL で、報農会主催の第 38 回功績者表彰式をオンラインで行います。お時間の許す方は是非ご覧ください（16:15~16:45 功績者表彰式）。

連絡先：公益財団法人 報農会 事務局

TEL/FAX：042-452-7773 E-mail：khono511@car.ocn.ne.jp URL：https://honokai.org

功績者表彰式のお知らせ

植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式及び祝賀会について、従来は会場開催で行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策等により、一昨年、昨年と表彰式のみをオンラインによるライブ配信で行いました。

本年度第38回について種々の要因を考慮に入れ検討してまいりましたが、残念ながら今回も表彰式のみを昨年と同様の形式で、以下のとおり開催いたします。お時間の許す方は是非ご覧になり、祝福を賜りたくご案内申し上げます。

開催日時：令和5年9月20日(水) 16:15~16:45

開催形式：オンラインによるライブ配信（シンポジウムと同じURL）

第38回功労賞受賞者（3名：五十音順）

池田 弘氏（いけだ ひろし）

職歴 福岡県農業改良普及所，同県農業総合試験場，同県植物防疫協会等会

- 業績
- 育苗箱栽培において特異的に発生したイネ馬鹿苗病，ごま葉枯病など病害の多発生要因を解明し，耕種的防除や有効な薬剤の選定等防除法の確立に貢献された。
 - 果菜類灰色かび病，ウリ類つる枯病などの薬剤感受性検定を実施し，耐性菌の確認，発生実態の調査を行い，効果的な薬剤防除体系を確立された。
 - 植物防協会で現地展示圃を設置・運営し，病虫害防除基準の策定に尽力されるとともに，農業大学校で農業後継者の育成にも尽力された。

下畑 次夫氏（しもはた つぎお）

職歴 岐阜県農業試験場，同県農業改良普及センター，同県病虫害防除所等

- 業績
- イネミズゾウムシの越冬状況や発育零点，食草条件などを調査し，同虫の生態を解明するとともに，効果的な防除方法の確立に尽力された。
 - 県内各地にフェロモントラップを設置し，コナガなど長距離移動性害虫の発生消長を調査し，トラップの形状や効率的な設置法の研究に貢献された。
 - シダクロスズメバチの飼育を行い，鱗翅目幼虫への攻撃性から野菜類害虫への天敵利用の可能性を考察された。

三浦 猛夫氏（みうら たけお）

職歴 宮崎県総合農業試験場 同県病虫害防除所，同県庁営農指導課等

- 業績
- ピーマンに発生したタバコモザイクウイルスストウガラシ系の発生生態を解明し，弱毒ウイルス利用によるピーマンの生産安定に寄与された。
 - 施設野菜に発生する灰色かび病の薬剤耐性菌の発生生態を調査し，薬剤ローテーションによる防除体系を確立された。
 - 県内のウリ類野菜に発生するウイルス病の発生生態を解明し，特にキュウリの安定生産に貢献された。